5．京丹後市久美浜町矢田神社 文化財調査（1）―本殿・石造物―

岸　泰子・山内　愛弓・渡邊　幸奈

1．はじめに

本稿では、京丹後市久美浜町にある矢田神社を対象とした文化財調査のうち、建造物（本殿）と石造物の調査成果について報告する。

2．建造物（本殿）

（1）建造物（本殿）

本殿　一間社流造　軒唐破風付　柿葺　　文政 10 年（1817）（棟札）

円柱　切目長押　内法長押　頭貫　木鼻　連三斗　実肘木　中備蟇股　二軒繁垂木　妻飾大瓶束笈形　庇角柱　虹梁形頭貫　木鼻　連三斗　実肘木　繋海老虹梁　中備龍彫刻　二軒繁垂木　三方切目縁　木階五級　浜床　浜縁

矢田神社は京丹後市久美浜町海士地区にある。境内は鳥居をくぐると平坦地がある。そこから階段をあがると拝殿、弊殿、本殿がある。拝殿と弊殿は接続して立つ。本殿は覆屋の中にある。

本殿は一間社流造の建物で、屋根は柿葺である。身舎は正面に桟唐戸を入れ、側面と背面を板壁で閉じる。内部は身舎の奥行きほぼ中央に半柱を立て、前方を外陣、後方を内陣とする。内外陣境は板扉で閉じる。

身舎の柱は円柱で、切目長押、内法長押、頭貫で柱を固める。柱身舎の組物は連三斗実肘木で、中備は蟇股である。

庇の柱は几帳面取を施した角柱で、その柱を虹梁形頭貫で繋ぐ。組物は皿斗付の連三斗実肘木で、その組物が庇屋根の正面に付く軒唐破風の菖蒲桁を受ける。この軒唐破風の菖蒲桁はそのまま身舎側に伸ばして手挟とする。身舎と庇は反りの強い海老虹梁で繋ぐ。

特徴としては、正面を彫刻等で華やかに飾る点をあげることができる。身舎正面の扉の脇にある小壁には波彫刻を貼る。庇の虹梁形頭貫の先端は動物頭の木鼻とし、正面側にも獅子頭の彫刻を付ける。庇の中備には龍彫刻を載せ、さらに軒唐破風の妻面は波渦彫刻で飾る。

建立年代は棟札から文政 10 年（1817）とわかる。虹梁絵様は浮き彫りで若葉に玉が多く付いており、19 世紀前期の特徴を有している。この棟札の年代を建立年代とみてよい。

なお、これまでの調査では、本殿の建立年代は 18 世紀後期から 19 世紀初期と評価されてきた（京丹後市教育委員会 2014）。今回の調査で棟札を確認できたことで、建立年代を確定することができた。また、これまでの調査では一部の部材が 18 世紀初期のものと報告されて

いる。この点については、身舎妻飾の虹梁が絵様の意匠がおとなしく、線も細い点が注目される。しかし、目視の限り、明確な風蝕差などはないことから、18 世紀初期の部材が使われているかどうかは判断しがたい。

（2）棟札

次に、本殿の棟札について概要と特徴を述べる。なお、本殿棟札については、『文化遺産学フィールド実習成果報告書 2024』で水上尚哉が報告している（水上 2024）。本節は、この報告を参照した。

矢田神社には本殿建立に関する棟札が 1 枚あり、木取板目、材質檜、仕上げ台鉋で、法量は総高 616㎜、肩部高 606㎜、上幅 181㎜、下幅 147㎜、厚さ 12㎜である。釘穴跡が 5 箇所ある。

本殿建立棟札の写真と銘文翻刻を図 8 に示す。

表面・裏面の記述をみていくと、ほぼ同じである。建立時に複数枚の棟札を作成することはあるが、表面・裏面にほぼ同じ文言を記すものは珍しい。

まず、共通する点を整理する。本殿の建立年代は文政 10 年（1827）、大工は橋爪村の樋口林治郎、海士村の中原清兵衛の 2 名である。橋爪村は矢田神社のある海士村の隣の村である。また、木引（木挽）は海士村の小森作兵衛と小森弥兵衛の 2 名である。地元の大工・職人が作事に関わっていることがわかる。

一方、表面と裏面の記述のうち唯一異なるのが神主の名前の表記である。表面は「仲原多仲」となっているが、裏面は「中原多仲」である。この理由は不明であるが、建立当時、神主の名字の表記が「中原」と「仲原」で併存していたのではないだろうか。

なお、表面は風蝕しており、墨がほとんど残っていない。本殿建立棟札は建物の外側に打ち付けられていたのだろう。

（3）小括

久美浜町では寺社建築調査がおこなわれており、その概要は把握できる状況にある。そのなかでも報告されている矢田神社であるが、今回の調査によって本殿の建立年代が明らかとなった。また、棟札を確認したことで、その内容の特徴も明確となった。

本殿は装飾が豊かな一間流造の建物で、棟札から建立年代や大工・職人が明らかとなる。実際、装飾や絵様をみていくと、19 世紀前期の特徴を有している。以上から、矢田神社本殿は地元の大工・職人によって建立された神社本殿であり、当地域の 19 世紀前期の神社本殿の建立年代の指標となりうる遺構として貴重といえる。（岸泰子）

3．石造物

矢田神社の境内には石灯籠 4 基、手水鉢 1 基、狛犬 2 対、石柱 6 基、石碑 1 基があり、西に延びる参道の先に鳥居 1 基と社号標 1 基が立つ（図 9）。石灯籠の形状は円柱型（①・②）と神前型（③・④）がある。石造物には享保、万延、明治、昭和の元号が確認され、最も古いものは近世まで遡る。今回の文化遺産学フィールド実習では、矢田神社境内の石灯籠と狛犬の写真撮影と紀年銘の釈読をおこなった。（山内愛弓）

石灯籠（②）左側面の銘文にある「中原九兵衛」は、矢田神社第 6 代神職を務め、寛保 2 年

（1742）に没した仲原九兵衛源義村と考えられる。中原家は代々矢田神社の神職を務めており、同家に伝来した系譜によると、第４～10代まで「仲原九兵衛」と名乗っていた（中原家文書33）。ただし、苗字の表記については、石灯籠の銘文にあるような「中原」と、史料上の「仲原」が明確に使い分けられていたか、あるいは混用されていたか、判然としない。また、歴代神職の没年・百年忌・生母などを記した史料によると、第６代仲原九兵衛源義村は、第５代仲原九兵衛源義清が没した享保７年（1722）から寛保２年までの約20年間、矢田神社の神職を務めていたとみられ、②の石灯籠もこの間に寄進されたものと考えられる（中原家文書29）。

（渡邊幸奈）

４．おわりに

本稿では矢田神社建造物（本殿）、棟札、石造物の調査成果について報告した。建造物・棟札調査では本殿の建立年代を確定することができたほか、地元の大工・職人が作事に関与していたことを知ることができた。石造物の調査では神職が石灯籠の寄進をおこなっており、文献史料からも裏付けられることが明らかとなった。また棟札と石灯籠には矢田神社神主の氏名が記載されていたが、どちらにおいても「中原」「仲原」を併用していた可能性が指摘できる点は興味深い。多角的に調査をおこなったことで、矢田神社の歩んできた歴史を知り新たな知見を得ることができたといえる。

（山内）

参考文献

京丹後市教育委員会 2014『京都府京丹後市　寺社建築物調査報告書　―久美浜町―』京丹後市教育委員会

水上尚哉 2024「久美浜の神社建築および矢田神社の特徴」『文化遺産学フィールド実習成果報告書 2024【京丹後市久美浜町】』京都府立大学文学部歴史学科

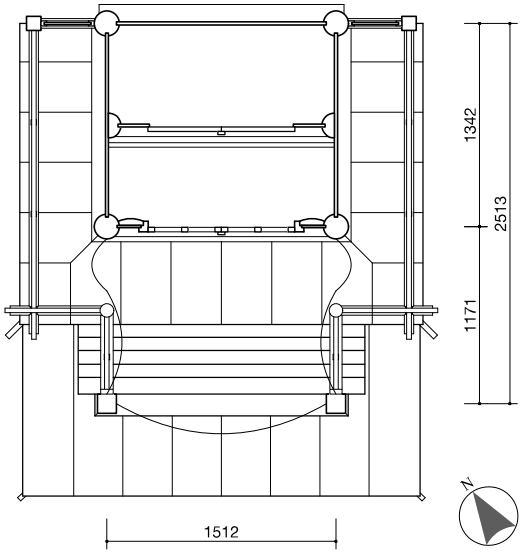

図１　矢田神社本殿平面図（1：50）

図２　矢田神社本殿正面

図３　矢田神社本殿庇図

図４　矢田神社本殿庇見返し

図６　矢田神社本殿身舎妻面虹梁絵様

図５　矢田神社本殿庇詳細

図７　矢田神社本殿庇虹梁形頭貫絵様

（裏）

文政拾丁亥年
大工橋爪村 樋口林治郎
当村大工 中原清兵衛
同 木引 小森作兵衛
同 木引 小森弥兵衛
奉造立
三月吉詳日

世話方佐重郎　世話人助蔵
世話方與三右衛門　世話人文八
世話方五良助　世話人𡚁治良
世話方甚右衛門　世話人松五郎
神主 中原多仲
願主 若連中

（表）

文政拾丁亥年
大工橋爪村 樋口林治郎
当村大工 中原清兵衛
同 木引 小森作兵衛
同 木引 小森弥兵衛
奉造立
三月吉詳日

世話方佐重郎　世話人助蔵
世話方與三右衛門　世話人文八
世話方五良助　世話人𡚁治良
世話方甚右衛門　世話人松五郎
神主 仲原多仲
願主 若連中

図８　矢田神社文政十年本殿建立棟札

図９　矢田神社石造物配置図（S=1/1000）

［正面（西）］奉造立御寶前
［右側面］願主當村　小森藤左衛門
辻　庄右衛門
［左側面］享保十四己酉九月吉日

石灯籠①（南西から撮影）

［右側面（北）］享保十三年戊申九月吉日
［左側面］願主當邑　氏子
中原九兵衛

石灯籠②（南西から撮影）

［正面（西）］御神燈
［右側面］明治廿六巳九月日

石灯籠③（南西から撮影）

［正面（北西）］御神燈
［右側面］萬延元庚申九月
願主當村
重右エ門

石灯籠④（北西から撮影）

［基壇背面］昭和四年十月吉日
三谷　高橋
島　田中
永留　井上園枝

狛犬（吽形）⑤
（南西から撮影）

［基壇背面］寄附者
小森仙□（カ）
三谷□
芦原□

狛犬（阿形）⑥
（南西から撮影）

図 10　矢田神社石造物

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。（い）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第11号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522　京都市左京区下鴨半木町1-5
発　行　日　2025年3月31日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒606-8540　京都市左京区下鴨高木町38-2